



滝小だより

滝頭小学校学校だより 2019th

令和元年5月31日

6月号

横浜市立滝頭小学校

校長 鶴飼 数夫

手をつなごう 笑顔いっぱい 大好き滝小

Hand in hands, Shining Smiles, We ♥ TKG



〒235-0011 横浜市磯子区丸山 2-25-1 TEL 045-751-0344、0345

Fax 045-761-9392

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/takigashira/>

滝頭小 検索

5. 29を忘れない

校長 鶴飼 数夫

まるで暦が1ヶ月近く早送りをしているかのように季節外れの真夏日が5月に訪れました。強い日射しが降り注ぎ、空を見上げることさえできないくらいの眩しさです。

毎年、この時期の朝会で、横浜大空襲に関する題材を使って平和について考える話をしています。右の写真は、学区近辺の航空写真ですが、地図上にマークした道路がその「疎開道路」です。普段このまちで生活している皆様ならよくお分かりかと思いますが、この地区の中では、道幅が広がっている道路で、交通量も多いです。周囲の景色に注意して通ってみると、所々に「根岸疎開道路」「磯子・坂下橋疎開道路」などの看板が立っているのに気づきます。この疎開道路が、75年前の戦争と深い関係があるということです。



疎開とは、そもそも戦場で兵隊や兵器を分散させて配置し、被害を少なくすることを指す用語だそうです。国内においては、空襲により火災が市街地に類焼することを防ぐために家屋を撤去して火除地を作ったり物資輸送のための道路にしたりする「家屋疎開」と、子どもたちを空襲の危険性が少ない場所に一時的に移住させる「学童疎開」として使われました。この家屋疎開は、全国の都市部で実施されましたが、現在でも「疎開道路」として名称が残っているのは、磯子区のこの場所だけだそうです。そういう意味では、貴重な戦争遺構といえます。学童疎開に関しては、子どもたちの命を守るために行われ、滝頭小学校では、406名が中郡秦野村に集団疎開し、全員無事に終戦を迎えることができました。しかし、この家屋疎開においては、疎開地に指定された場所に住む人たちは、僅かな補償金を支給されながら、住み慣れた地を立ち退くことを余儀なくされました。そこにおいては、速やかに確実に実行することが求められ、異議を唱えることさえ許されませんでした。つまり、まちを守るために自分の生活を犠牲にさせられてしまったということです。さらには、その家屋の解体作業にあたったのは、まちの自警団や学徒動員の学生たちで、中には中学生もいたそうです。その時関係した人々の気持ちとはいったいどういうものだったのか、想像するに余りあります。全体の目的遂行のためには、個人の幸せや権利は犠牲にしなければならない時代の出来事です。

これらの出来事は、単に歴史の1ページに留めて風化させてしまうのではなく、この地域の生きた教材として取り上げ、子どもたちに伝えていかなければいけないと思います。6年生は、社会科の学習で再び詳しく学習することになるでしょう。大好きな滝頭のまちいっぱいに広がる平和な笑顔の向こうには、こうした涙の歴史があることを忘れてはいけないということです。

詳しくは、本校90周年記念誌編纂においても資料提供などでたいへんお世話になった、磯子区郷土史研究家の葛城峻さんのホームページをご参照ください。他にも興味深い情報が満載です。

→ <https://daddy99432you.wixsite.com/katuragishun/kawa11>